

「いのち」と「愛」に着目する子育て/岡本富郎著より

クリスチャンとして保育学者としてのべ 5000 人の相談を受けてきたエキスパートの先生です

子育てワンポイント 励ましのことば24

バックナンバーはHPからご覧頂けます

不登校を、優しく受け止めてあげること

不登校とは、文部科学省の定めによると年間30日以上欠席することです。2017年度の小中学校における不登校の児童生徒数は、14万4031人であり、割合は1.5%です。

わが子が学校へ行かない期間が続くと、親は当然心配します。そして、学校へ頑張っていくように叱り、促します。最近では不登校への理解が徐々に進んできましたが、ほとんどの親は、最初はとにかく、学校に行ってほしいと子どもたちにせまります。

しかし、当の子どもは突然不登校になるのではなく、不登校になる前に、じつと我慢して登校している場合が多い。そのことに親は気がついてないでいます。

最初に不登校について考えたいことは、学校の集団生活に合わない子どもがいるということ。それまで集団経験の少なかった子どもは、大人数の中で一緒に生活するのはかなり困難です。友達ができず、また些細な喧嘩でも学校に行くこともできなくなります。また日本の教師の仕事量は諸外国と比べて多すぎて、生徒ひとり一人とゆっくり話す時間を十分にとりにくいです。こう見ると、子どもたちはいじめを含めて、自分が隠している胸の内を、親にも子どもにも言えず学校生活を過ごしています。

親はどうしたらよいでしょう。まずは、我が子が学校に行きたくないと言ったら、「怒らないから」と伝えて、なぜ行きたくないかを、優しくゆっくり聞いてみましょう。そして、「今日は無理なくていいよ」と伝え、「少し休んで、行く気になったら行けばいい」と温かく語りかけてあげましょう。とにかく親が一方的に叱らないこと、そしてまずは優しく、不登校を受け止めてあげることです。

* 一方的に叱らずに話を聞く。受け止める。私たち親にも余裕が必要です。倉知契



God is good all the time!
瀬戸カルバリーチャペル

「子育てワンポイント」バックナンバーは、HPからご覧頂けます。
主日礼拝と木曜祈禱会を YouTube で配信 中！

